

キャラクター名  
日下 志夏 (カカ シツ)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン エグザイル		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	16歳	性別	男性
覚醒	渴望	衝動	吸血	初期侵食率	38	%
出自	結社の一員	経験	汚れ仕事	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	3	0	0			3	行動値	13
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	13
精神	1	0	0			1	戦闘移動	18
社会	2	0	0			2	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	2		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣 (ベース)	白兵	3r+2	6	Lv+5		侵食+3
(別エンゲージ)	白兵	3r+2				侵食+13 一瞬で肉薄し、骨の刃を付けた拳で殴りかかる。
(同エンゲージ)	白兵	3r+2				侵食+11
(100% 別エンゲージ)	白兵	3r+2				侵食+13

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
相馬 鉄火	P 誠意	N 脅威		
テレーズ・ブルム	P 尽力	N 恐怖		
橋倉 祝	P 尊敬	N 不信感		
鎬木 鋼	P 好奇心	N 不信感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	2	2%	メジャ	-	-	自動	-	
効果:	クリティカル値 -Lv							
骨の剣	2	3%	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果:	白兵武器作成							
さらなる波	5	2%	メジャ	-	-	対決	-	
効果:	攻撃力+[Lv*2]							
音速攻撃	3	2%	メジャ	武器	-	対決	-	
効果:	ダイス+ [Lv]							
一閃	1	2%	メジャ	武器	-	対決	-	
効果:	全力移動後攻撃							
ブレインシェイク	1	2%	メジャ	-	-	対決	-	
効果:	命中時、バッドステータス放心							
先手必勝	2	-	常時	至近	自身	-	-	
効果:	行動値+ [Lv*3]							
爪剣	4	3%	メジャ	武器	単体	対決	-	
効果:	攻撃力+ [Lv*2] ドッジダイス-1個							
軽功	1							
効果:	どこでも走れる。							
異形の歩み	1							
効果:	どこでも走れる。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

父親、母親は死亡している。  
幼い頃から裏の世界に生きていた。ろくに学校にも通っていなかったおかげで成績は悪い。  
薬仕事の際にドラッグを多用していた為、精神が不安定になることがある。そして薬に耐性がある。

シナリオ「優しさは誰の為に」を踏破。  
短髪だったが、今は髪を伸ばしている。目にかからないようにバンダナを着用。  
薬による情緒不安定の状態は克服し、過去の幻影を超え、現在は安定している。  
急激な侵食率の上昇により衝動『吸血』が抑えられず、自傷癖が目立ち、長袖や厚手の服を着用している。

シナリオ「想いの果て」クリア  
祝の『嫌な予感』が的中。先輩である坂口壱と敵対。  
その後元凶であるレネゲイドビーイングを破壊。

PC2 日下志夏  
シナリオロイス テレーズ・ブルム 推奨感情 尽力/恐怖  
予定よりも早く祝の査問会が行われることとなったため、ここ数日連絡が付かない状況が続いていた。  
急ぎの任務もなく暇を持て余していた志夏が市内を散歩していると、携帯に着信があった。  
祝か、或いは緊急事態の発生か、と思えば電話の主は君の恩人テレーズ・ブルムだった。  
中枢評議員である彼女は情報の管理に気を使っている。  
彼女から直接連絡が来るのはかなり珍しいことだ。  
……何かが起きる予感を君は感じていた。